

新製品! 示差走査熱量測定装置 DSC 5+

DSCイノベーション 次世代パフォーマンス



50年以上の熱分析の歴史をもつメトラー・トレドが提供する比類なきDSC装置

■ 主な特長

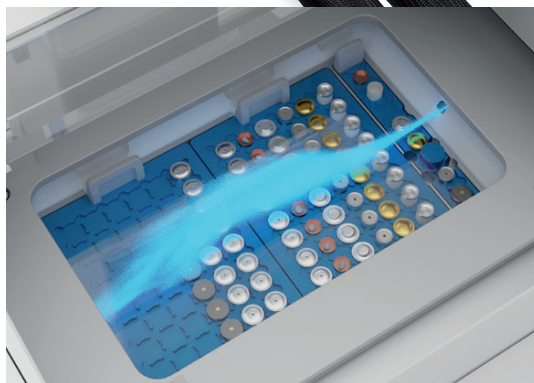
- DSC測定で熱流束モードと入力補償モードの選択が可能
- パージ機能付きで最大96検体が可能なオートサンプラー
- AI解析ソフトや自動解析機能との組み合わせで実験を更に効率的に

詳細は裏面、または熱分析装置ページの [詳細情報依頼](#) よりぜひお気軽にお問合せください。
製品およびソフトウェアやアクセサリにつきましてもご対応いたします。

新製品DSC 5+ [▶ www.mt.com/ta-dsc](http://www.mt.com/ta-dsc)



METTLER TOLEDO



■示差走査熱量測定装置の心臓部であるDSCセンサ

新技術により2つのモードで測定が可能

熱流束モードと入力補償モードの2つのモードを選択し測定が可能。入力補償モードを使用することでより高精度な比熱測定を実現。

高感度、高分解能の測定

熱流束モードでは過去の高感度センサよりも18%より高感度に測定が可能。温度分解能も向上し結晶多形のような隣接しているピーク分離が改善。

耐久性のあるタフなDSCセンサ

材質にセラミックスを使用しているため、高温での酸素雰囲気下や腐食性ガスが発生する環境でも測定可能。メンテナンスも焼きだしでOK!

■より便利でより効率的な実験のために

液体窒素の消費量がより経済的に

電気冷却と同時に接続することで、電気冷却では足りない分のみ液体窒素を使用するため、液体窒素の消費量が大幅に削減。

大量のサンプル測定が可能なおートサンプラー

最大96検体をトレイに載せることができ、オートサンプラーでリファレンスパンの交換が可能に。待機中もガスパージを行うことで吸湿などの影響を回避。

自動解析やバリデーション、AIによる解析も可能

マクロ解析によりユーザーと同じ解析内容を実施させられ、メソッドに組み込むことで自動解析が可能。AI解析ソフトウェアを用いることでAIが結果に対しセカンドオピニオンとしての情報を提供。

テクニカルデータ

温度データ

温度範囲	空冷	RT~500 °C	RT~700 °C
	イントラクーラー	-90~500 °C	-90~700 °C
	液体窒素	-155~500 °C	-155~700 °C
温度正確性 ¹⁾	±0.2 K		
温度精度 ¹⁾	±0.02 K		
昇温速度 (RT~700 °C) ²⁾	0.001~200 K/min		
冷却速度 ²⁾	0.001~50 K/min		
冷却時間	空冷	8分 (700~100 °C) の場合	
	イントラクーラー	3.5分 (100~0 °C)	
	液体窒素	11分 (100~-100 °C)	

1) 金属規格に基づく。

2) 機器の構成に依存。

www.mt.com

For more information

メトラー・トレド株式会社 ラボインストルメンツ事業部

TEL:03-5815-5515

熱分析チーム

製品お問合せ : support.jp@mt.com

ご注文はこちら : order.jp@mt.com

納期お問合せ : order.jp@mt.com